



一橋大学国際・公共政策大学院
(情報流通行政局総務課主査)
兼田 千里 平成22年入省
KANEDA CHISATO

総務省の外から見た景色

学生生活について

私は現在、行政官国内研究員として一橋大学国際・公共政策大学院において電気通信事業の競争政策に関する研究を行っています。入省後は情報通信分野の業務に携わり、中でも電気通信市場の分析・検証に関する実務を行ったことから、現在の研究テーマを選びました。

大学院では、少人数での講義やゼミを通じて、先生方からきめ細やかに御指導いただいています。学内には図書館やいつでも利用できる研究室があるため、勉強に専念できる環境が整っています。また、大学院の学生には、私と同じ社会人学生や、学部卒の学生、海外からの留学生等様々なバックボーンを持った人たちがおり、議論を行った際には自分にはない視点にハッとさせられることが多々あります。大学院での研究から得た知見や新しい視点は、今後の実務に役立てたいと考えています。

様々な経験を通じて成長できる職場

総務省に入省してから、電気通信市場の分析・検証、ICTインフラの国際展開、医療分野におけるICTの利活用等、様々な分野の業務を経験させていただきました。そのため、新しく勉強しなければいけないことも多いですが、一方で業務を行う上ではそれまでの経験を元に多面的に考えることが可能となります。

また、私のように大学院で改めて勉強するチャンスもあります。日々仕事をしていると、忙しさをどうしても目の前の業務にばかり目をやりがちになります。そのため、一度総務省の外に出て客観的に考えられる時間は、今後実務を行う上でも貴重な経験だと感じています。また、総務省ではその他にも海外留学や海外の大使館、国際機関への派遣等、幅広い分野の業務に携わることができ、成長できるチャンスがあるというのが魅力の一つだと思います。



総務省からメキシコへ、そして…

ラテンアメリカへの第一歩

私は現在、メキシコでスペイン語やラテン文化を学んでいます。世界各国から集まったクラスメートと、時には課題を議論し、時には互いの国の文化を話し合い、日本で経験したことのない刺激的な毎日をご過ごしています。また、メキシコの陽気な国民性、アミーゴ文化を肌で感じ、今後のラテン諸国との仕事に向けて有意義な経験を得ていると感じています。

総務省とラテンアメリカは、地デジ日本方式の技術協力から始まる10年来の友好関係があります。また、現在ではICT分野における日本の豊富な技術力や経験を広める活動を続けています。災害情報共有や遠隔医療、農業IoTなどにより、ラテン諸国が抱える多様な社会課題の解決、国際目標であるSDGsの実現に向けて、ICT利活用の面から取り組んでいます。日本の技術が海を越えて世界に広がる、その一助となるべく、この研修で得る経験を今後の仕事に活かしたいと思います。



日墨戦略的GP研修
(国際戦略局総務課主査)
川本 晃洋 平成25年入省
KAWAMOTO AKIHIRO

夢中になれるものを探しませんか？

私が思う総務省の魅力の一つは、多様な活躍の場があることです。

ICT分野は、医療や教育などあらゆる分野での利活用が期待され、日本中そして世界中へ広がっています。家電も自動車も身近にあるあらゆるものがICTで繋がる時代がやってきます。また、ここメキシコで私が日本の家族・友人と気軽に連絡を取り合うように、ICTは国と国をそして世界中を繋げています。この分野を所管する総務省は、霞が関・地方・海外を有機的に結びつけ、ローカルからグローバル、他分野に至るまで幅広く仕事のフィールドにできる職場です。多様な活躍の場があるからこそ、自身の琴線に触れる何か、夢中になれる仕事に出会う機会は多分にあると思います。

私自身、総務省での仕事を通じて将来やりたい事に出会い、今メキシコに一步を踏み出しました。みなさんも総務省で夢中になれる何かを探してみませんか？

